

第1講

ベクトル(1) 平面上のベクトルと演算

基礎学習

1 ベクトルの意味

線分の長さ、図形の面積、物体の質量などは、1つの数値(大きさ)で表すことができる。

これに対して、いろいろな量の中には、大きさのほかに向きをもつものがある。例えば、天気予報などで見る「西の風、風力3」や、点をx軸方向に3だけ平行移動するなどのように、大きさと向きをもつものがある。このような量の表し方を定義する。

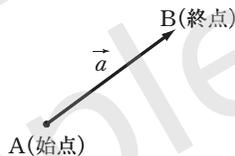
線分ABについて、AからBに向かうという向きを考えたものを

① ABといい、Aを始点、Bを② という。

① について、位置を問題にせず、大きさと③ だけを考えたものをベクトルという。

ベクトルは、右図のように矢印のついた線分を用いて表すことができ、 \overrightarrow{AB} , \vec{a} のように書く。

このとき、線分ABの長さをそのベクトルの大きさといい、 $|\overrightarrow{AB}|$, $|\vec{a}|$ のように表す。



↔ 有向線分とベクトル

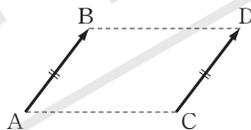
下図の平行四辺形ABCDで、有向線分ABと有向線分DCはベクトルとしては同じものである。



2 ベクトルの相等

向きが同じで、大きさが等しい2つのベクトルは等しいという。ベクトルが等しいことを $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$ のように表す。

また、2つのベクトル \vec{a} と \vec{b} が等しいことを $\vec{a} = \vec{b}$ と表す。



↔ ベクトルの相等

ベクトル \overrightarrow{AB} を平行移動して \overrightarrow{CD} に重ね合わせることができる。

$$\Leftrightarrow \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$$

(4点A, B, C, Dが一直線上にないときは、平行四辺形ABDCを作る。)

3 ベクトルの加法

2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} に対して、 $\vec{a} = \overrightarrow{AB}$, $\vec{b} = \overrightarrow{BC}$ とするとき、ベクトル \overrightarrow{AC} を \vec{a} と \vec{b} の和といい、 $\vec{a} + \vec{b}$ と表す。すなわち

$$\overrightarrow{AB} + \text{④ } \overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AC}$$

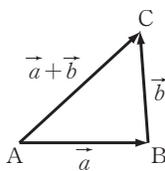
である。

ベクトルの加法について、次の法則が成り立つ。

(1) 交換法則: $\vec{a} + \vec{b} = \text{⑤ } \vec{b} + \vec{a}$

(2) 結合法則: $(\vec{a} + \vec{b}) + \vec{c} = \vec{a} + (\vec{b} + \text{⑥ } \vec{c})$

例 $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} + \overrightarrow{CD} = \text{⑦ } \overrightarrow{AC} + \text{⑧ } \overrightarrow{CD}$



↔ ベクトルの加法

$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AC}$$

終点 $\overbrace{\quad\quad}^{\text{同じ}}$ 始点

↔ ベクトルについて、数や文字式の加法と同様に計算ができる。

↔ 結合法則が成り立つので、()をつけずに $\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}$ と表記する。

例題 1 [ベクトルの意味] → 1

次の **解答** の にあてはまることばや記号を入れよ。

解答

速度や力のように ① と向きをもつものをベクトルという。

右図のように、有向線分ABで表されるベクトルは、 ② と表し、点Aを ③，点Bを ④ という。

また、ベクトル \overrightarrow{AB} の大きさを ⑤ と表す。



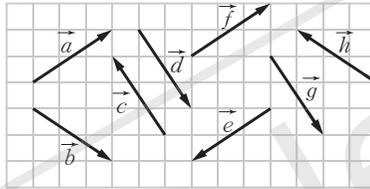
類題 1 次の にあてはまることばを入れよ。

ベクトルとは ア と イ をもつものをいう。 ウ

して重ねることができるベクトルは等しい。

例題 2 [ベクトルの相等] → 2

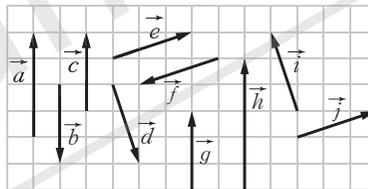
右図のベクトルのうち、等しいベクトルの組をすべて答えよ。



解答

向きが同じで大きさが等しい2つのベクトルは等しい。等しいベクトルは、 \vec{a} と ⑥， ⑦ と \vec{g}

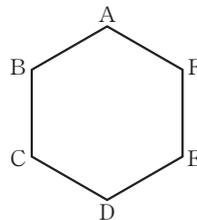
類題 2 右図のベクトルのうち、等しいベクトルの組をすべて答えよ。



例題 3 [ベクトルの加法] → 3

右図の正六角形ABCDEFにおいて、次のベクトルを1つのベクトルで表せ。

- (1) $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BD}$
- (2) $\overrightarrow{AC} + \overrightarrow{BF}$



解答

(1) $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BD} =$ ⑧

(2) $\overrightarrow{BF} =$ ⑨ であるから、 $\overrightarrow{AC} + \overrightarrow{BF} = \overrightarrow{AC} +$ ⑨ $=$ ⑩

類題 3 例題3の正六角形ABCDEFにおいて、次のベクトルを1つのベクトルで表せ。

- (1) $\overrightarrow{AD} + \overrightarrow{DC}$
- (2) $\overrightarrow{AF} + \overrightarrow{EC}$

ヒント

↔ 有向線分

線分ABでAからBに向かうという向きを考えるもの。

有向線分では位置を区別するが、ベクトルでは平行移動して重なるものは等しいと考える。

例題 1 の答

- 1 大きさ
- 2 \overrightarrow{AB}
- 3 始点
- 4 終点
- 5 $|\overrightarrow{AB}|$

例題 2 の答

- 6 \vec{f}
- 7 \vec{d}

↔ ベクトルの加法

$\overrightarrow{AO} + \overrightarrow{OB}$ のときは
同じ点

\overrightarrow{AB} となる。

$\overrightarrow{AO} + \overrightarrow{\Delta B}$ のときは
異なる点

\overrightarrow{AO} の終点が Δ

または、 $\overrightarrow{\Delta B}$ の始点が \circ となるように平行移動する。

例題 3 の答

- 8 \overrightarrow{AD}
- 9 \overrightarrow{CE}
- 10 \overrightarrow{AE} (\overrightarrow{BD})

4 単位ベクトルと零ベクトル

大きさが1であるベクトルを単位ベクトルという。

すなわち、 \overrightarrow{AB} が単位ベクトルのとき、 $|\overrightarrow{AB}| = \text{①}$ である。

始点と終点一致したベクトルを零ベクトルといい、記号 $\vec{0}$ で表す。すなわち、 $\overrightarrow{AA} = \text{②}$

零ベクトルの大きさは ③ で、向きは考えない。

また、ベクトル \vec{a} に対して、 $\vec{a} + \vec{0} = \vec{0} + \vec{a} = \text{④}$

↔ 零ベクトル $\vec{0}$

数の0と同じような性質がある。

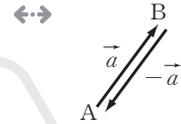
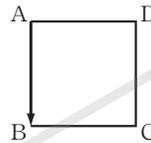
5 逆ベクトル

ベクトル \vec{a} と大きさが等しく、向きが反対であるベクトルを \vec{a} の逆ベクトルといい、 $-\vec{a}$ で表す。すなわち、

$-\overrightarrow{AB} = \text{⑤}$ である。

また、ベクトル \vec{a} に対して、 $\vec{a} + (-\vec{a}) = \vec{0}$

例 右図の正方形ABCDにおいて、ベクトル \overrightarrow{AB} の逆ベクトルは、 \overrightarrow{BA} と ⑥

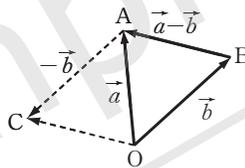


6 ベクトルの減法

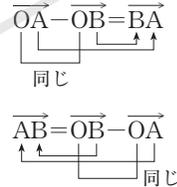
2つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} に対して、 \vec{a} に \vec{b} の逆ベクトル $-\vec{b}$ を加えたベクトル $\vec{a} + (-\vec{b})$ を $\vec{a} - \vec{b}$ と表し、これを \vec{a} から \vec{b} を引いた差という。

例 右図で、 $\vec{a} - \vec{b} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{BO} = \overrightarrow{OA} + \text{⑦}$
 $= \overrightarrow{OC} = \text{⑧}$

よって、3点O, A, Bについて、 $\overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{BA}$



↔ ベクトルの減法



7 ベクトルの実数倍

ベクトル \vec{a} と実数 k に対して、 $k\vec{a}$ を次のようなベクトルと定める。

$\vec{a} \neq \vec{0}$ のとき

- (1) $k > 0$ のとき、 \vec{a} と同じ向きで、大きさが $|\vec{a}|$ の k 倍
特に、 $k = 1$ のときは、 $k\vec{a} = \vec{a}$
- (2) $k = 0$ のとき、 $\vec{0}$ (零ベクトル)
- (3) $k < 0$ のとき、 \vec{a} と反対の向きで、大きさが $|\vec{a}|$ の $-k$ 倍
特に、 $k = -1$ のときは、 $k\vec{a} = -\vec{a}$

$\vec{a} = \vec{0}$ のとき

任意の実数 k に対して、 $k\vec{0} = \vec{0}$ と定める。

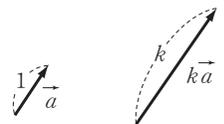
例 右図において、

$\vec{b} = \text{⑨} \vec{a}$, $\vec{c} = \text{⑩} \vec{a}$

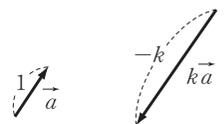
である。



↔ $k > 0$ のとき



$k < 0$ のとき



- 解答 ① 1 ② $\vec{0}$ ③ 0 ④ \vec{a} ⑤ \overrightarrow{BA} ⑥ \overrightarrow{CD} ⑦ \overrightarrow{AC} ⑧ \overrightarrow{BA} ⑨ 2
 ⑩ -3

例題4 [単位ベクトルと零ベクトル] →4

次の【解答】の□にあてはまることばや記号を入れよ。

解答

- (1) $|\vec{AB}|=1$ であるベクトル \vec{AB} を **1** ベクトルという。
 (2) $\vec{a}+\vec{x}=\vec{a}$ を満たすベクトル \vec{x} を **2** ベクトルといい、**3** で表す。

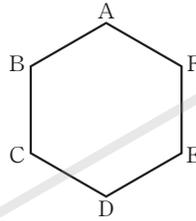
類題4 次の□にあてはまる数や記号を入れよ。

\vec{AB} が単位ベクトルのとき、 $|\vec{AB}|=\square$ ア を満たす。
 また、 $\vec{a}+\vec{0}=\vec{0}+\vec{a}=\square$ イ である。

例題5 [逆ベクトル, ベクトルの減法] →5, 6

右図の正六角形 ABCDEF において、 $\vec{AB}=\vec{a}$,
 $\vec{AF}=\vec{b}$ とするとき、次のベクトルを \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

- (1) \vec{DE}
 (2) \vec{FB}



解答

- (1) $\vec{DE}=-\vec{ED}=-\vec{AB}=\square$ 4
 (2) $\vec{FB}=\vec{AB}-\square$ 5 = \square 6

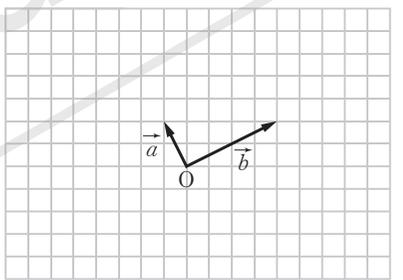
類題5 例題5の正六角形 ABCDEF において、 $\vec{AC}=\vec{a}$, $\vec{AE}=\vec{b}$ とするとき、次のベクトルを \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

- (1) \vec{DF} (2) \vec{BF}

例題6 [ベクトルの実数倍] →7

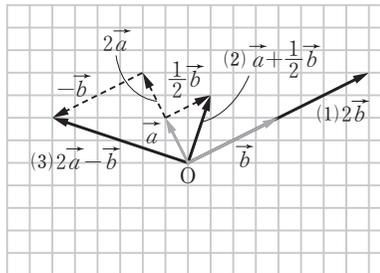
\vec{a}, \vec{b} が右図のように与えられているとき、次のベクトルを点 O を始点として図示せよ。

- (1) $2\vec{b}$
 (2) $\vec{a}+\frac{1}{2}\vec{b}$
 (3) $2\vec{a}-\vec{b}$



解答

- (1) \vec{b} と同じ向きで大きさが **7** 倍のベクトルを作る。
 (2) \vec{a} の終点を始点として **8** \vec{b} を作り、その終点と点 O を結ぶ。
 (3) $2\vec{a}$ の終点を始点として $-\vec{b}$ を作り、その終点と点 O を結ぶ。



類題6 例題6の図で、次のベクトルを点 O を始点として図示せよ。

- (1) $-2\vec{a}$ (2) $2\vec{a}+\vec{b}$ (3) $\vec{a}-\frac{1}{2}\vec{b}$

ヒント

↔ 実数 a, x について、 $a+x=a$ を満たす $x=0$ に相当するベクトルが $\vec{0}$ である。

すなわち $\vec{a}+\vec{0}=\vec{a}$

である。

例題4の答

- 1 単位 2 零
 3 $\vec{0}$

↔ $\vec{DE}=-\vec{ED}$

↔ $\vec{FB}=\vec{AB}-\vec{AF}$

例題5の答

- 4 $-\vec{a}$ 5 \vec{AF}
 6 $\vec{a}-\vec{b}$

例題6の答

- 7 2 8 $\frac{1}{2}$

8 ベクトルの演算

ベクトルの実数倍について、次の法則が成り立つ。

k, l を実数とするとき

- (1) $k(l\vec{a}) = (kl)\vec{a}$
- (2) $(k+l)\vec{a} = k\vec{a} + l\vec{a}$
- (3) $k(\vec{a} + \vec{b}) = k\vec{a} + k\vec{b}$

例 $2(-3\vec{a}) = \text{①} \vec{a}$

$2\vec{a} + 7\vec{a} = \text{②} \vec{a}$

$4(\vec{a} + \vec{b}) = \text{③} \vec{a} + \text{④} \vec{b}$

↔ ベクトルの計算は多項式の計算と同様に行える。

k, l, a, b を実数とするとき

- (1) $k(la) = (kl)a$
- (2) $(k+l)a = ka + la$
- (3) $k(a+b) = ka + kb$

9 ベクトルの平行

$\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} が同じ向き、または反対の向きであるとき、 \vec{a} と \vec{b} は平行であるといい、 $\vec{a} // \vec{b}$ と表す。

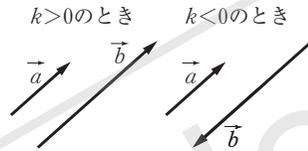
このとき、

$\vec{a} // \vec{b} \iff \vec{b} = k\vec{a}$ となる実数 k がある

ここで、 $k > 0$ のときは \vec{a} と \vec{b} が同じ向き、 $k < 0$ のときは \vec{a} と \vec{b} が反対の向きになる。

例 \vec{e} を単位ベクトルとするとき、 \vec{e} と平行で大きさが2のベクトルは $2\vec{e}$ と $-2\vec{e}$ の2つがある。

例 $|\vec{a}| = 3$ のとき、 \vec{a} と平行な単位ベクトルは $\text{⑤} \vec{a}$ と $-\text{⑤} \vec{a}$ の2つがある。



↔ $\vec{b} \neq \vec{0}$ なので $k \neq 0$

↔ $2\vec{e}$ は \vec{e} と同じ向き、 $-2\vec{e}$ は \vec{e} と反対の向き。

↔ \vec{a} と平行な単位ベクトルは、 $\pm \frac{1}{|\vec{a}|} \vec{a}$

10 ベクトルの1次独立と分解

$\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} が平行でないことを、 \vec{a} と \vec{b} は1次独立であるという。このとき、任意のベクトル \vec{p} は、実数 k, l を用いて

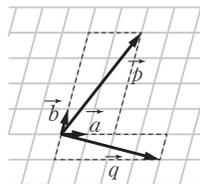
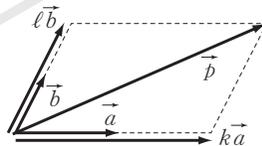
$\vec{p} = k\vec{a} + l\vec{b}$

とただ1通りに表せる。

例 $\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}, \vec{q}$ が右図のように与えられているとき、 \vec{p}, \vec{q} をそれぞれ \vec{a}, \vec{b} を用いて表すと

$\vec{p} = \text{⑥} \vec{a} + \text{⑦} \vec{b}$

$\vec{q} = \text{⑧} \vec{a} - \vec{b}$



↔ $\triangle OAB$ で、 $\vec{OA} = \vec{a}$ 、 $\vec{OB} = \vec{b}$ とするとき、 \vec{a} と \vec{b} は1次独立である。

↔ 右辺 $k\vec{a} + l\vec{b}$ をベクトルの1次結合の式という。

↔ \vec{p}, \vec{q} が \vec{a}, \vec{b} と平行な辺をもつ平行四辺形の対角線となるように分解する。

解答

- ① -6 ② 9 ③ 4 ④ 4 ⑤ $\frac{1}{3}$ ⑥ 2 ⑦ 4 ⑧ 4

ヒント

↔ ベクトルの計算は多項式と同様に行う。
 ↔ x の1次方程式を解く要領で行う。

例題7の答

1	-1	2	$3\vec{b}$
3	2	4	6
5	-5		
6	$-\frac{5}{2}\vec{a} + 3\vec{b}$		

↔ $\vec{a} // \vec{b}$ のとき $\vec{b} = k\vec{a}$ と表され、 \vec{a}, \vec{b} は $k > 0$ ならば同じ向きで、 $k < 0$ ならば反対の向き。
 $|\vec{b}|$ は $|\vec{a}|$ の $|k|$ 倍。

例題8の答

7	3	8	-2
9	$-\frac{1}{2}$		

↔ \vec{p}, \vec{q} がそれぞれ対角線となるような平行四辺形を考える。

例題9の答

10	3	11	2	12	2
13	2				

例題7 [ベクトルの演算] → 8

次の問いに答えよ。

- $(5\vec{a} - \vec{b}) - (2\vec{a} - 4\vec{b})$ を計算せよ。
- $3\vec{a} + 4\vec{x} = 2(\vec{x} - \vec{a}) + 6\vec{b}$ を満たす \vec{x} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

解答

- $(5\vec{a} - \vec{b}) - (2\vec{a} - 4\vec{b}) = (5-2)\vec{a} + (\boxed{1} + 4)\vec{b} = 3\vec{a} + \boxed{2}$
- $3\vec{a} + 4\vec{x} = 2\vec{x} - \boxed{3}\vec{a} + \boxed{4}\vec{b}$ より
 $2\vec{x} = \boxed{5}\vec{a} + \boxed{4}\vec{b}$ よって、 $\vec{x} = \boxed{6}$

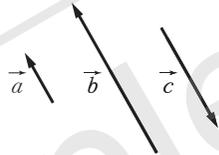
類題7 次の問いに答えよ。

- $3(2\vec{a} - \vec{b}) - 5(3\vec{a} + 2\vec{b})$ を計算せよ。
- $\vec{x} + 2\vec{a} - 3\vec{b} = 2(\vec{x} - \vec{a}) - (\vec{a} + 2\vec{b})$ を満たす \vec{x} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

例題8 [ベクトルの平行] → 9

右図で、 $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ は互いに平行で、 $|\vec{a}| = 2$, $|\vec{b}| = 6$, $|\vec{c}| = 4$ であるとき、次の問いに答えよ。

- \vec{b}, \vec{c} をそれぞれ \vec{a} を用いて表せ。
- \vec{a} と平行な単位ベクトルを \vec{a} を用いて表せ。

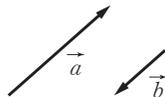


解答

- \vec{b} は \vec{a} と同じ向きで大きさが3倍であるから、 $\vec{b} = \boxed{7}\vec{a}$
 \vec{c} は \vec{a} と反対の向きで大きさが2倍であるから、 $\vec{c} = \boxed{8}\vec{a}$
- $|\vec{a}| = 2$ なので、 \vec{a} と平行な単位ベクトルは、 $\frac{1}{2}\vec{a}$ と $\boxed{9}\vec{a}$

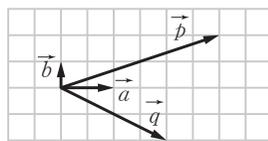
類題8 右図で、 \vec{a} と \vec{b} は平行で、 $|\vec{a}| = \frac{1}{3}$, $|\vec{b}| = \frac{1}{6}$ であるとき、次の問いに答えよ。

- \vec{b} を \vec{a} を用いて表せ。
- \vec{a} と同じ向きの単位ベクトルを \vec{a} を用いて表せ。



例題9 [ベクトルの1次独立と分解] → 10

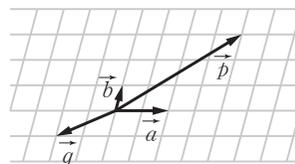
$\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}, \vec{q}$ が右図のように与えられているとき、 \vec{p}, \vec{q} をそれぞれ \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。



解答

$$\vec{p} = \boxed{10}\vec{a} + \boxed{11}\vec{b} \quad \vec{q} = \boxed{12}\vec{a} - \boxed{13}\vec{b}$$

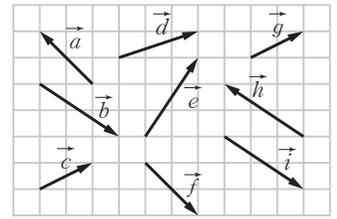
類題9 $\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}, \vec{q}$ が右図のように与えられているとき、 \vec{p}, \vec{q} をそれぞれ \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。



>>> 確 認 問 題 <<<

1 右図のベクトルのうち、等しいベクトルの組をすべて答えよ。

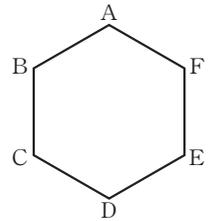
↔ 例題2



2 右図の正六角形ABCDEFにおいて、次のベクトルを1つのベクトルで表せ。

↔ 例題3

- (1) $\overrightarrow{AC} + \overrightarrow{CE}$
- (2) $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{CE}$



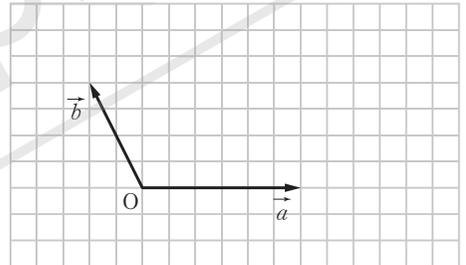
3 2の正六角形ABCDEFで、 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{AE} = \vec{b}$ とすると、次のベクトルを \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

↔ 例題5

- (1) \overrightarrow{DB}
- (2) \overrightarrow{BE}

4 \vec{a} 、 \vec{b} が右図のように与えられているとき、次のベクトルを点Oを始点として図示せよ。↔ 例題6

- (1) $2\vec{a} + \vec{b}$
- (2) $\frac{2}{3}\vec{a} - \frac{1}{2}\vec{b}$



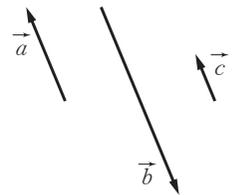
5 次の問いに答えよ。↔ 例題7

- (1) $2(\vec{a} + 2\vec{b}) - 4(3\vec{a} - 2\vec{b})$ を計算せよ。
- (2) $\frac{3}{2}(5\vec{a} - \vec{b}) - \frac{1}{3}(2\vec{a} + 3\vec{b})$ を計算せよ。
- (3) $3\vec{a} - \vec{x} = 4\vec{x} + 2\vec{a} - 3\vec{b}$ を満たす \vec{x} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

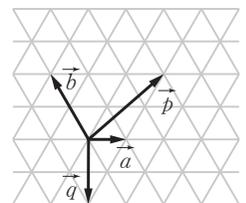
6 右図で、 \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} は互いに平行で、 $|\vec{a}| = 3$ 、 $|\vec{b}| = 6$ 、 $|\vec{c}| = \frac{3}{2}$ であるとき、次の

問いに答えよ。↔ 例題8

- (1) \vec{b} 、 \vec{c} をそれぞれ \vec{a} を用いて表せ。
- (2) \vec{a} と反対の向きの単位ベクトルを \vec{a} を用いて表せ。



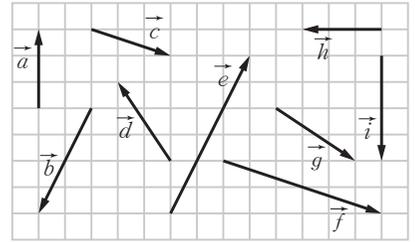
7 \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{p} 、 \vec{q} が右図のように与えられているとき、 \vec{p} 、 \vec{q} をそれぞれ \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。↔ 例題9



基本問題

1 右図において、次の条件を満たすベクトルの組をすべて答えよ。

- (1) 互いに平行なベクトルの組
- (2) 大きさが等しいベクトルの組



2 次の等式が成り立つことを証明せよ。

- (1) $\vec{AB} + \vec{BC} + \vec{CD} + \vec{DA} = \vec{0}$
- (2) $\vec{AB} + \vec{CD} = \vec{AD} + \vec{CB}$

3 $\vec{x} = 2\vec{a} + 3\vec{b}$, $\vec{y} = 3\vec{a} - \vec{b}$ のとき、次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

- (1) $2\vec{x} - 5\vec{y}$
- (2) $\frac{1}{3}(\vec{x} + \vec{y}) - \frac{1}{4}(\vec{x} - 2\vec{y})$

4 次の等式を満たす \vec{x} , \vec{y} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

- (1)
$$\begin{cases} \vec{x} + 2\vec{y} = -\vec{a} \\ \vec{x} - 2\vec{y} = 5\vec{a} \end{cases}$$
- (2)
$$\begin{cases} \vec{x} + 3\vec{y} = \vec{a} - 2\vec{b} \\ 2\vec{x} - \vec{y} = 3\vec{b} \end{cases}$$

5 \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} が右図のように与えられているとき、次のベクトルを点Oを始点として図示せよ。

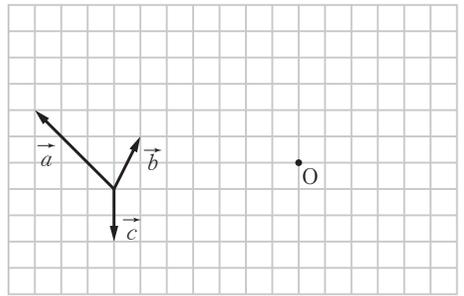
(1) $2\vec{a}$

(2) $-\frac{1}{3}\vec{a}$

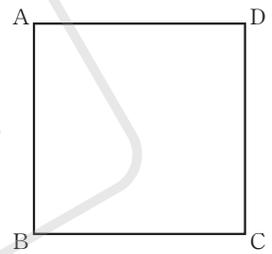
(3) $\vec{a}+\vec{b}$

(4) $\vec{a}+\frac{1}{2}\vec{c}$

(5) $2\vec{b}-\vec{a}+\vec{c}$



6 右図のような1辺の長さが1の正方形ABCDで、 $\overrightarrow{AB}=\vec{a}$, $\overrightarrow{AD}=\vec{b}$ とする。
 \overrightarrow{BD} と同じ向きの単位ベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

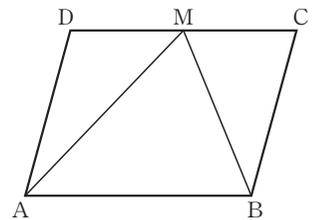


7 右図の平行四辺形ABCDにおいて、辺CDの中点をMとする。
 $\overrightarrow{AB}=\vec{a}$, $\overrightarrow{AD}=\vec{b}$ とするとき、次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

(1) \overrightarrow{DM}

(2) \overrightarrow{AM}

(3) \overrightarrow{BM}



→ 応 用 問 題 ←

1 四角形ABCDにおいて、 $\overrightarrow{AB}=\overrightarrow{DC}$ ならば、四角形ABCDはどのような四角形か。

2 1辺の長さが2で、 $\angle AOC=60^\circ$ のひし形OABCにおいて、 $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OC}=\vec{c}$ とすると、 \overrightarrow{OB} と同じ向きの単位ベクトルを \vec{a} 、 \vec{c} を用いて表せ。

3 正六角形ABCDEFにおいて、 $\overrightarrow{AB}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{BC}=\vec{b}$ とすると、次のベクトルを \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

- (1) \overrightarrow{AF}
- (2) \overrightarrow{AE}
- (3) \overrightarrow{CE}

4 右図の台形ABCDにおいて、 $AB=4$ 、 $CD=3$ 、 $\overrightarrow{CM}=\frac{2}{3}\overrightarrow{CD}$ を満たす点をM、辺BCの中点をNとする。 $\overrightarrow{AB}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{AD}=\vec{b}$ とすると、次のベクトルを \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

- (1) \overrightarrow{DM}
- (2) \overrightarrow{BC}
- (3) $\overrightarrow{AM}+\overrightarrow{DN}$

